

～少子化と病児保育について～

令和初の新春を迎えました。

昨年末、日本の少子化と人口減少は予想以上に進行しているという報道がありました。今治市の状況も同じで、昨年度の出生数は初めて1000人を割り込み、人口減少は年間1500人を超えるペースで進んでいます。

このような中で、**病児保育の役割は保育の穴を埋める子育て支援**にあります。

しかし、キッズケア青い鳥は一步進んで、**子どもを病児保育に預けたことで、お母さんから子育てがこれまで以上に楽しくなった**といってもらえるような保育を目指していく考えです。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



12月の感染症情報

今治市は12月第2週からインフルエンザの本格的な流行期に入りました。現在流行している型は、2009年から流行しているAソ連型です。さらに第3週からは嘔吐を主症状とする感染性胃腸炎も流行しはじめました。予防対策としてこまめな手洗いとマスク着用を心がけてください。

～マスクを正しく着用できていますか？～

○正しいマスクの着用方法

鼻と口の両方を確実に覆うことが大切です。ゴムひもを耳にかけ、フィットするように調節しましょう。

○マスクの外し方

マスクの表面には、ウイルスなどが付着している可能性があります。マスクの表面には触らず、ゴムひもをつかみ外します。その後、ごみ箱に捨てて手を洗いましょう。



シリーズ キッズケア・青い鳥がめざす保育 ⑧

～発達を学び、発達の一步前の活動を知ること、発達を促す保育を！～

4歳ごろ

～ちゃんとできる自分になりたい～

ハサミを使って線の上を切れるよ

ケンケンして前に進めるよ

「えーと」「それでね」と言いながら、一生懸命話そうとします。せかさずじっくり聞いてあげること、すじ道をたてて考える力がつかます。

体の使い方が上手になり、自分でできることを実感し自信がついてきます。「イヤだけどがんばる」「ちゃんとできるように見られたい」など相手の思いを感じる心の成長もみられてきます。時にはわざと「できん、やって」と言うこともあります。できることが当たり前ではなく**頑張っている姿を認めてもらいたいと願う子どもの気持ちに気づいてあげる**ことで、より一層自分の成長を感じ、また相手を受け入れる心の成長にもつながっていきます。

友だちの様子を見て「こうやたら上手にできるんだ」と考え、できることも増えてきます。人間関係の広がりもみえてきます。

“発達は子どもの願いから始まる”
白石正久著より

次回は5.6歳頃をします。

12月のご利用状況

12月の利用延べ人数は104名、一日平均利用人数は5.2人でした。年齢別では、1歳児が28名(27%)で最も多く、次いで2歳児の14名(13%)、7歳児の13名(12%)の順でした。疾患別では、咳、鼻、熱の急性上気道炎が39名で最も多く、次いでインフルエンザ34名の順でした。その他、溶連菌感染症、アデノウイルス感染症、感染性胃腸炎などによる入室がありました。12月第2週から流行しているインフルエンザのため0歳児から10歳児までの幅広い年齢のお子さんの入室がありました。インフルエンザの流行期は病児保育も混雑しますが、キャンセルも多く出ますので、前日に予約できなくてもキャンセル待ちをしておくことをお勧めします。